

# 持続可能な未来社会を創造する主体を育成する国語科の構想

## 国語科で目指す資質・能力

様々な情報に溢れた未来社会において、人は多様な言葉を容易に得ることができる。そのような社会であるからこそ、「美しさや感動を生み出す言葉の仕組み」を理解し、他者の心情を理解したり、最適な言葉を選択したりする力が必要である。そこで、国語科では、現行学習指導要領で目指す「国語で正確に理解し適切に表現すること」に加え、「熟考や評価を伴う質の高い言語活動を通して、根拠を明確にし、自分の思いや考えを表現すること」を重視する。

具体的には、以下の3つの資質・能力の育成を目指す。

- 言葉の特質を理解し、論理的に考えたり、豊かに想像したりしながら、相手や目的、状況や意図に応じて適切に思いや考えを表現することができる。  
【主に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に関わる創造性】
- 言葉を介して他者、テキスト、自己や先哲との関わりの中で、伝え合う力を高め、考えを共有・吟味するよさに気付こうとする。  
【主に「学びに向かう力・人間性等」に関わる協働性】
- 言葉がもつよさや国語を尊重して能力の向上を図る態度について、自分の考えの変容を自覚しようとする。  
【主に「学びに向かう力・人間性等」に関わる省察性】

## 言葉による見方・考え方

言葉による見方・考え方は、

学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして言葉への自覚を高めること

である。この言葉による見方・考え方を子供が自在に働かせ、豊かで確かなものに高めていくためには、対象と言葉、言葉と言葉の関係が示す内容を「着目する視点」として具体化し整理する必要があると考えた(表1)。

【表1 働かせたい見方・考え方(文学を読む際の例)】

- (テキストに内在するもの)
  - ・人物の行動会話・相互関係・時、場・語り手の視点
  - ・起承転結・変化と変化のきっかけ・表現の技法

---

- (読者に内在するもの)
  - ・感想と理由・経験・複数の根拠・根拠への理由付け
  - ・文学への俯瞰的捉え・自分にとっての意味

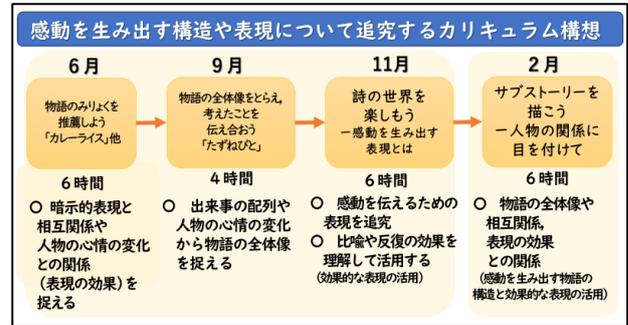
これらの言葉による見方・考え方を、質の高い言語活動を通じた問題解決の過程の中で、自覚的に発揮したり、俯瞰的に分類・整理したりすることを促す。そうすることで例えば文学を読むことであれば「～に着眼することで解釈が深まる」「文学を学ぶ意味とは～だ」といった汎用性の高い知識を獲得することができる。このような見方・考え方の具体を各領域の特徴に基づいて整理していく。

## 具体的構想

### 1 学びの文脈を生み出すカリキュラム構想

国語科では、「言葉がつくりだす論理の一貫性」を中核にカリキュラムを構想する。論理の一貫性とは、「目的や状況と表現や構成の効果の一貫性」「中核となる概念が他単元や他教科他領域で汎用的である一貫性」の大きく2つを意味している。国語科カリキュラムにおいては、領域で一貫して重視される見方・考え方を明確にし、単元構成及び教材化の工夫を行っていく。

例えば、第5学年「読むこと(文学)」の学習においては、「感動が生み出される言葉の論理」について認識を高め(6月、9月)、活用すること(11月)ができるという1年間のカリキュラムを設定することで、学びの文脈における文化の拡充の側面からアプローチしていく(図1)。

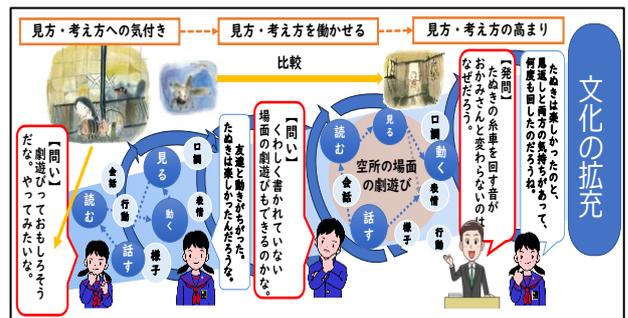


【図1 国語科カリキュラムの一例(5年生)】

### 2 言葉による見方・考え方を働かせ豊かにする単元構成や教材化の条件

見方・考え方を働かせながら資質・能力を発揮するために、質の高い言語活動を重視する。質の高い言語活動とは、(ア)教材特性を生かした学習課題であること、(イ)読み進める着眼点を具体化する活動であること、(ウ)見方・考え方の高まりを自覚する学習過程であることを条件とする。

例えば、第1学年教材「たねきの糸車」の学習においては、場面の空所を「劇遊び」で表現する学習課題とすること(ア)で、場面の様子や人物の表情、口調、会話、動きを想像する(イ)と考える。さらに本時の後半では教師が「糸車をまわす音が変わらない理由」等を問うことで、叙述の言葉を基に想像が広がることを自覚することができる(ウ)と考える(図2)。



【図2 質の高い言語活動を位置付けた単元構成(例)】

## 具体的な実践事例

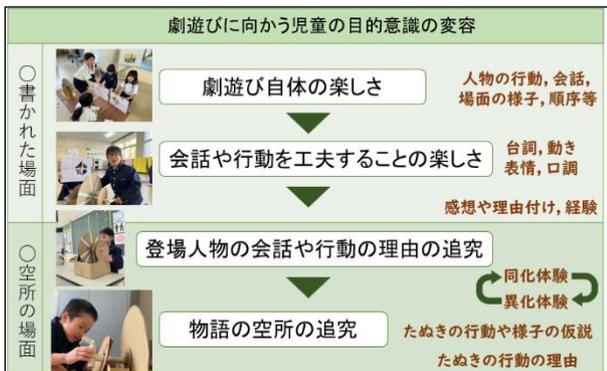
### 第1学年「げきあそびをしておはなしをたのしもう」

#### 1 本単元における言葉による見方・考え方

前頁で述べたように、子供たちが、「言葉による見方・考え方」を自在に働かせるため、子供たちの発達段階や教材特性を基に、対象と言葉、言葉と言葉の関係が示す内容を着目する視点を具体化し整理すると、本単元における「対象」とは、テキストに内在する「人物の行動、会話、場、語り手の視点」また、読者に内在する「感想とその理由、自分自身の経験」が挙げられる。これらを「劇遊び」という言語活動を通して、同化しながら表現することによって、子供たちは、空所について人物の「表情、口調、様子、行動の理由」を視点に、場面の様子や人物の行動に着目して叙述を基に具体的に想像するという創造性を発揮することができる。と考える。

#### 2 本単元で重視する学びの文脈

本単元では、「劇遊び」を通して、場面の様子に着目し、登場人物の行動や会話を具体的に想像することをねらいとした。そこで、自分が気に入った動きや会話を繰り返し表現して楽しむ「劇遊び」の経験を基に、学問的・文化的側面を重視した。具体的には、物語を演じて楽しみたいという思いを、劇遊びを通して追究し、表出した登場人物の行動や会話、表情・口調・様子から行動の理由を話し合い、物語の内容の大体を理解し、具体的に想像する力を養うことができるようにした。また、本教材の特性である冬の場面のたぬきの様子が書かれていないことを生かして、その前後にある、秋と春の場面に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、物語の空所について、登場人物になりきって想像する楽しさを捉えることができる文脈をつくっていった。



#### 【資料1 「劇遊び」に向かう学びの文脈】

#### 3 授業の実際

本時(8/9)では、物語の内容の大体を捉えたことを基に、空所の場面である冬の間のたぬきの様子や行動を想像し、劇遊びを通して、表情や口調、行動を表現したり、行動の理由を説明したりすることができることを主眼とした。本時は、単元の終末段階であり、「冬の間(空所)にたぬきが何をしていたか」を劇遊びの目的とした。この目的に照らして、表現する活動を行った際、目的と劇遊びが

一貫するように以下の3点に留意し、活動を組織した。①物語の空所を想像する劇遊びの場を設定すること、②冬の場面を「冬の初めの場面」「冬の終わりの場面」と分けてたぬきの様子の変容を捉えることができるようにしたこと、③グループ活動の後に教師から、「たぬきの糸車を回す音が、おかみさんの回す音と変わらないのはなぜか」という発問を行い、劇遊びの中で子供たちが捉えた「行動の理由」を話し合う場を設定することである。

まず、本時の導入では、冬の場面のない『たぬきの糸車』を提示した。そうすることで、今までの劇遊びを想起し、たぬきの行動や会話、場面の様子に注目して劇遊びしようとする姿が見られた。次に、展開段階では、教師のモデルを基に行動や表情・口調・台詞といった冬の間のたぬきの様子について想像したことを選択したり、行動の理由について話し合ったりする場を設定した。そうすることで、子供が、叙述に立ち返り、登場人物の行動や会話を根拠に行動の理由について話し合う姿が見られた。

劇遊びの目的「冬の間(空所)にたぬきは何をしていたか。」

①「冬の始め」「冬の終わり」を分けて追究

② 行動の理由を説明

グループ活動

前の場面の様子に着目

C1: 家に誰もいなくなっているから、糸車をさわってみようとするたぬきの様子を動きや台詞を考えて劇にしよう。

後場の様子に着目

C2: 糸は丁寧に積み重ねていたね。おかみさんに、恩返しをすることも考えていたのかな。

キーカラキーカラキーカラキーカラ

どうして、おかみさんとたぬきの糸車の音は同じなのかな。

C3: 糸車をやっどさわることができる。楽しんだ。

C4: おかみさんへの恩返しのために、糸をたくさん作ったからだと思います。やさしい音だと思いました。

創造性の高まり

#### 【資料2 劇遊びの際の子供の様子と発言】

劇遊びの中で子供たちは、友達の動きと自分の動きを比較し、「やぶれしょうじからずっと見ていて(糸車を)触ってみたかったから」「おかみさんに恩返しをしたかったから」と発言した(資料2)。これは、冬の前場の場面から読んだことを基に「行動の理由」に着目して話し合った結果である。最後に、終末段階では、「物語に書かれていることを基に書かれていないことを想像するおもしろさは何か」を問うことで、叙述を基に劇遊びをしながら物語を読んだことや、物語の空所を想像する楽しさについて考えを述べる子供の姿が見られた(資料2)。

#### 4 考察

資料2に示すように、登場人物になりきったり、行動の理由を説明したりする姿を国語科で目指す創造性が発揮された姿と考える。子供の発達段階や、教材特性を生かした「劇遊び」を設定する際、空所を想像したり、行動の理由を説明し合ったりすることは、創造性の発揮に有効であった。また、想像したことを動きとして表出したり、同化体験と異化体験の活動を繰り返したりすることも、効果的であったと考える。